

## ボルチモア & オハイオ鉄道博物館とボルチモアの鉄道網

宮本 大輔 ワシントン国際問題研究所研究員

### 1. はじめに<sup>1)2)</sup>

ボルチモア&オハイオ鉄道博物館 (B&O Railroad Museum) は、「アメリカの鉄道事業発祥の地」と広く認められており、スミソニアン協会と提携している博物館である。当博物館は、アメリカ鉄道に関する、世界で最も古く（1830年に営業開始）、最も貴重であり、最も総合的なコレクションを誇っている。その16ヘクタール（東京ドーム3.5個分）もの敷地には、200両に及ぶ車両、広大な歴史的建造物5棟、敷地全体に伸びる西半球で初めての1.5マイルに及ぶ線路等がある。

2015年9月5日に鉄道博物館（埼玉県大宮）と、コレクション、専門知識、人員、及び運営手法等の交流の実現、並びに国際的な鉄道遺産活動への協力を目的として姉妹館提携を行った。この提携により、世界各地の旅行者への魅力の発信も期待されている。

### 2. ボルチモア&オハイオ鉄道博物館<sup>3)4)</sup>

1830年のボルチモア・アンド・オハイオ鉄道の開業式典では、アメリカ合衆国で最初の定期旅客鉄道運行として馬車鉄道が新しく建設された13マイル（21キロメートル）の線路をマウント・クレアからエリコット・ミルズ（現在のエリコット・シティ (Ellicott City)）まで運行した。現在存在するマウント・クレア駅の煉瓦造りの建物は1851年に建造された。隣接するエフレイム・フランシス・ボールドウィン (Ephraim Francis Baldwin) の設計による扇形庫は、客車を整備するために1884年に建てられた。

ボルチモア・アンド・オハイオ鉄道では、その長年の歴史の中で、広報目的でその機関車や関連する備品を収集してきた。これらの収蔵物は、永久に保管できる場所に集約することが決断されるまで、多くの場所に保管されてきた。マウン

ト・クレア工場の車両整備庫が選択されて、新しい博物館が1953年開設された。

博物館は、ボルチモア・アンド・オハイオ鉄道そのものより長く存続し、同社を引き継いだチェシー・システムとCSXトランスポーターションもそのままに保存してきた。1990年にCSXトランスポーターションは新しく設立された非営利の博物館組織に資産と収蔵物を引き継いだ。1999年にはスミソニアン博物館と提携した。

博物館には原型のものほか、複製品も展示されている。複製品の中には、ボルチモア・アンド・オハイオ鉄道が1927年に100周年の「鉄馬の祭典 (Fair of the Iron Horse)」に向けて製作したものも含まれる。展示物としてはボルチモア・アンド・オハイオ鉄道25号、チェサピーク・アンド・オハイオ鉄道490号等がある。

### 3. ボルチモアの鉄道網<sup>5)~10)</sup>

ボルチモアの公共交通はメリーランド・トランジット・アドミニストレーション (MDOT) により管理運行されている。

#### (1) ボルチモア・メトロ・サブウェイリンク

メトロサブウェイという名称で親しまれており、地下区間と高架区間が混在する。

スペック

路線数：1

1日平均乗客数：18千人

路線延長：24.8キロメートル

駅数：24

#### (2) ボルチモア・ライトレールリンク

ライトレールという名称で親しまれており、ボルチモア・ワシントン国際空港 (Baltimore-Washington)

International Airport, BWI) に直結している。

スペック

路線数：3

1日平均乗客数：27千人

路線延長：48.3キロメートル

駅数：33

(3) メリーランド・エリア・リージョナル・コミュニーター  
 MARC (Maryland Area Regional Commuter) の名で  
 親しまれている。アムトラック及びCSXが保有する線路  
 を、使用料を支払うことで運行している。いわゆる北東回廊  
 の一部であるPENN線はアムトラックに運行を委託してお  
 り、BWI レール駅からはBWIへ直通するシャトルバスが  
 運行されている。

スペック

路線数：3

1日平均乗客数：40千人

路線延長：301キロメートル

駅数：42



図2 MARCの路線図

【引用・参考文献・出典資料】

- 1) 鉄道博物館 HP, “企画展「ボルティモア&オハイオ鉄道博物館展」の開催について”, [http://www.railway-useum.jp/press/pdf/20150903\\_hp\\_1.pdf](http://www.railway-useum.jp/press/pdf/20150903_hp_1.pdf)
- 2) 鉄道博物館 HP, “米国ボルティモア&オハイオ鉄道博物館との姉妹館提携について”, [http://www.railway-useum.jp/press/pdf/20140821\\_BOhp.pdf](http://www.railway-useum.jp/press/pdf/20140821_BOhp.pdf)
- 3) Wikipedia, “ボルチモア・アンド・オハイオ鉄道博物館”, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9C%E3%83%AB%E3%83%81%E3%83%A2%E3%82%A2%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%AA%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%82%AA%E9%89%84%E9%81%93%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8>
- 4) Baltimore & Ohio Railroad Museum HP, “Baltimore & Ohio Railroad Museum HP”, <http://www.borail.org/default.aspx>
- 5) MOT HP, <https://www.mta.maryland.gov/>
- 6) MDOT HP, “Transit Maps”, <https://www.mta.maryland.gov/transit-maps>
- 7) Maryland Transit Administration, [https://en.wikipedia.org/wiki/Maryland\\_Transit\\_Administration](https://en.wikipedia.org/wiki/Maryland_Transit_Administration)
- 8) Baltimore Metro SubwayLink, [https://en.wikipedia.org/wiki/Baltimore\\_Metro\\_SubwayLink](https://en.wikipedia.org/wiki/Baltimore_Metro_SubwayLink)
- 9) Baltimore Light RailLink, [https://en.wikipedia.org/wiki/Baltimore\\_Light\\_RailLink](https://en.wikipedia.org/wiki/Baltimore_Light_RailLink)
- 10) MARC Train, [https://en.wikipedia.org/wiki/MARC\\_Train](https://en.wikipedia.org/wiki/MARC_Train)

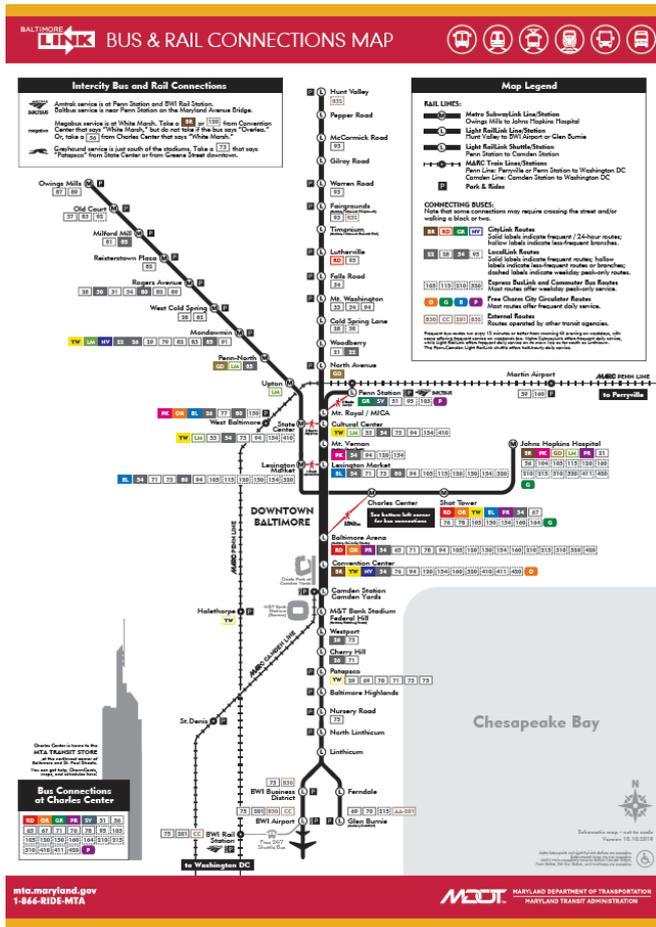


図1 ボルチモアの路線図